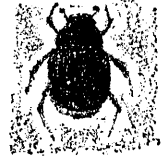


# 楽器の工夫について

志保田 和子



幼児の生活と音楽リズムは密接な関係をもっており、幼稚園や保育所の生活は、幼児の音楽的興味の発達に多くの機会を与えます。

子どもたちは幼稚園や保育所においてしばしば歌うこと、楽器をひくこと、リズム活動をすること、などによってその思想・感情を表現します。これらの音楽表現は子どもたちの自然の要求を満足させる愉快な経験であり、教師は、子どもたちが満足と喜びをもって自由に音楽的興味を表現する機会を持つようにしむけるような環境を計画する責任があります。

大鼓・タンブリン・トライアングル・カスターネット属・拍子木・鈴、などいわゆるリズム楽器は一般的に打楽器に属するものであり

ますが、これらの楽器は腕や手を動かすだけで演奏出来ますのでこの幼児にも容易く使用することが出来ます。

中でも太鼓は我が国においても古くから祭礼の時などに用いられ親しまれてきたものであります。たいこ自体、音のリズム的要素を備えており、両手を自由に使いながら腕や手を大きく動かして遊ぶ中に子どもたちのリズム感遊びにつれて発達していきます。太鼓自体が活動として使用されると共に、また、幼児のリズム活動の伴奏としても適当な楽器であります。構造も簡単で丈夫であり、持ち運びが自由なので、室内だけに限らず戸外でも用いることが出来ます。幼児が喜びと満足をもって遊ぶ太鼓を私たちの手近かにあるものの中から工夫して作ることが出来ますなら、子どもたちはどんなによろこんで活用することでしょう。

## ◇太鼓の作り方

### 一、材料

(1) 胴(側) Ⅱ釘樽・木製円筒形のもの(桶・ふるいの枠・魚介類容器など)・木製井鉢

○粉ミルク用特大罐(上下をきりぬく)

○帽子入れの箱・厚紙製円筒

○植木鉢・ひょうたん

### (2) 鼓

面Ⅱ鼓面に使用する用布(皮・紙の場合も同様)は鼓面の直径+10cm以上

○生皮(牛皮・三味線に使用する皮)

○ゴム引レインコート地・シェード(窓用)・麻(両面にニスを塗る)・薄いプラスチック

○ゴムチューブ・厚地油紙・防湿加工厚地包装紙(ニスを塗ると張りのある音がする)

## 二、鼓面の張り方

(1)胴の木質部がしっかりしていて鋳を打つことが可能な場合は(例えば釘樽・桶など)太鼓専用の鋳で鼓面の周囲をとめます。この鋳は装飾を兼ねます。

(イ)図||味噌桶利用

〔鼓面は牛皮使用

(ロ)図||釘樽利用

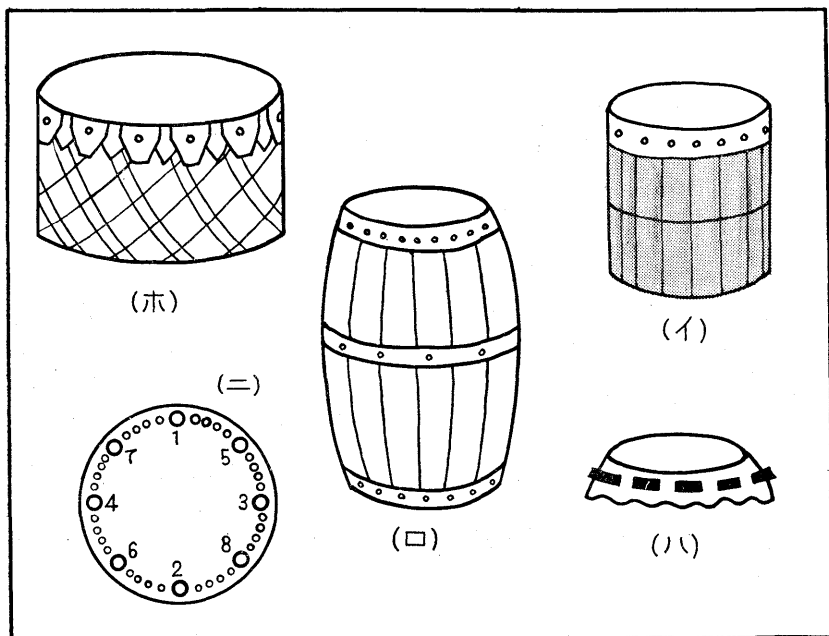
○鼓面用の生皮は大鼓を製作している所に行つて使用の目的を説明すると加工済みの適当な皮を購入出来ます。この皮には鼓面をしっかり張るためにロープがかけ易いように(イ)図のような棒がさしてあります。

鼓面を張る三十分——一時間前に水に浸けて柔軟性をもたせます。(水に浸ける時間は天候・季節によって加減します。)

○鼓面をロープでしっかり張り終つたら、音をききながら対角的に鋳でとめてからそれぞれの間を細かくとめます。……(ニ)図

(2)画鋳でとめます……(イ)図、篩の枠を利用、鼓面に三味線の皮を使用。周囲を画鋳でとめます。

(3)弦またはひも(風糸、丈夫なよりひも)で鼓面を張りながら締め



ます。

(△) 図 || 特大ミルク罐利用、鼓面に防湿加工包装紙を使用

(□) 図 || 植木鉢利用、鼓面に厚地油紙使用

(○) 図 || ひょうたんの下部をきりとり鼓面に麻布(両面ニス

塗布) 利用

### 三、バチの作り方

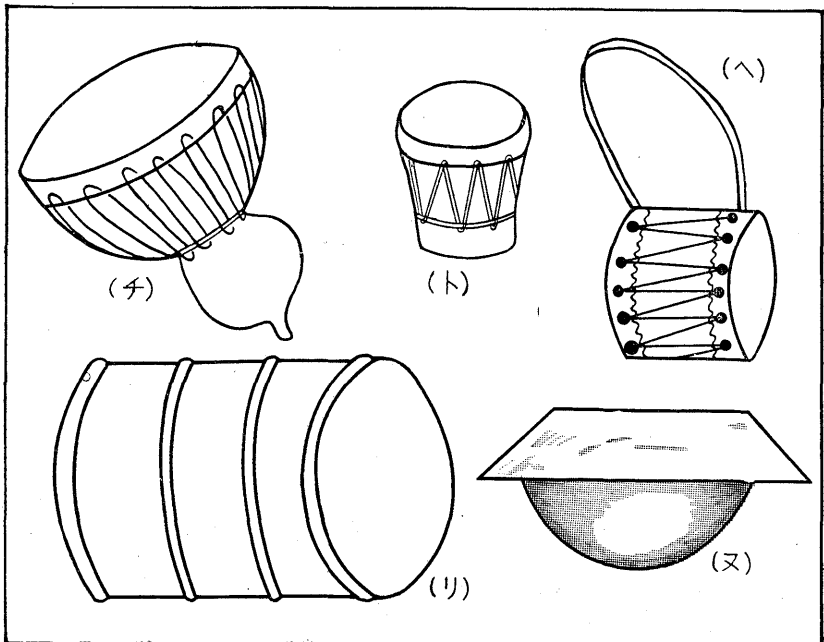
金属製の管または堅い木質の棒の先にミシン用糸まきを通し  
ルヤフェルトの布で被ってバチの頭部を作ります。頭が外れない  
ようにしっかりとめておくことが大切です。

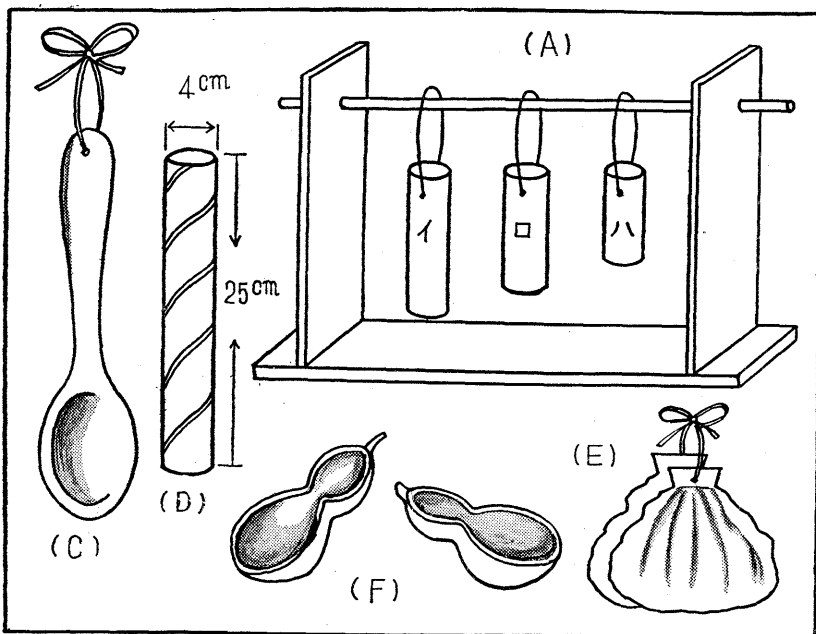
◇ドラム罐が手に入れば、錆ないように美しくペンキを塗ると余韻  
を含むひびきをもった極大太鼓となります。……………(○) 図

◇ボール(容器)の上に厚いボール紙をのせるだけでも即席の太鼓  
が出来ます。……………(×) 図

自由楽器を取り換える機会を与えることもまた幼児の音楽経験  
のために必要です。

子どもたちはこの実験的経験を通して楽器をどのように取り扱  
うかを知ると同時に、いろいろな種類の、楽器特有のリズム効果及び  
音質を見出し、各楽器の出す音の可能性にも親しみを持つようにな  
ります。物質が異なれば音質が異なること、同じ物質でも大小、長  
短、太い細い、形のちがいににより音高・音量に影響があること  
など……………。





そして次第に環境内で見出す種々の物の音質を験すことに興味を持つようになっていきます。幼児のこのような音に対する興味を認め、音響実験のためによい材料を選び与える、幼児の音楽経験を更に楽しく豊かなものにする事が出来るでしょう。

次に最近試みました音響遊びの材料の中から「打ち合わせて音を出すもの」の例を図によって説明します。

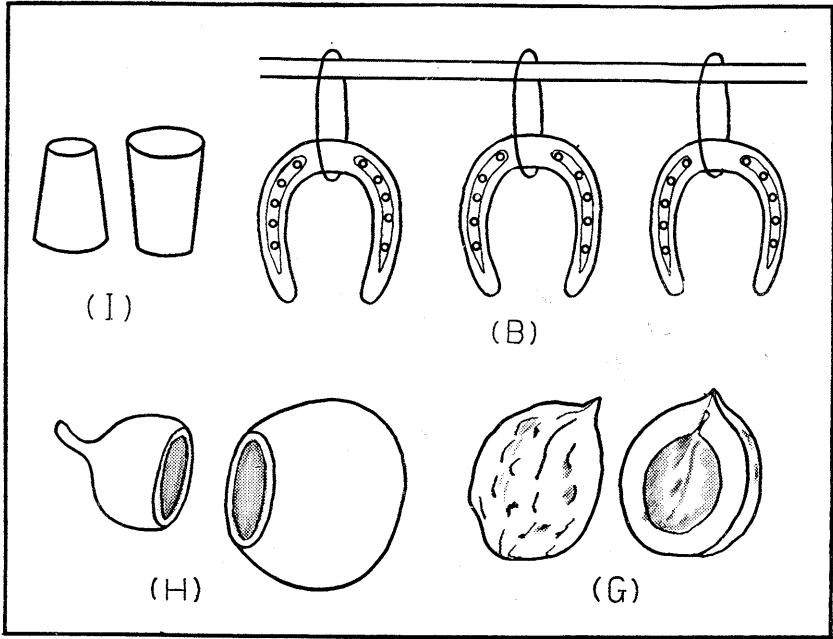
(A) 一本の真鍮管(直径1.7 cm)をそれぞれ 35 cm、27 cm、20 cm の長さに切り、上部に穴をあけてエナメル線を通し柄をつけて図のような台に吊り上げました。台は板切れを利用して作製し上部の角棒は模型飛行機用の棒を使用しました。

金属の細い棒で軽く打つとそれぞれ異なった高さの音がします。真鍮管の代りに同じ細さの竹筒を使用してもよろしい。また長さを一定して太さに変化をつけるのも一方法です。

最初は三つの音位の実験から始まり次第に四つ、五つ、と管の数を増していく中に、音階と関連が出来たり、また、知っている短かいメロディーと結び合わせて遊ぶようになることもあります。

(B) 馬蹄を利用しますと含みのある快音がびびきます。パチのため

に金属の細い棒または既製のトライアングルのパチを用います。馬蹄はトライアングルの代りに使用出来ます。吊りひもに太い針金を使うと響きが悪くなりますので(A)と同様エナメル線を三重にしてつけました。



- (C) 銀スプーンも美しい楽音を奏します。
- (D) スクリーン用サランを求めました時に芯にまいてあった直径4 cm 長さ28 cmの厚紙製円筒です。細い竹の棒で軽く叩きますと遊覧船のポツポツと言ふ歯切れのよい音がします。打つものによって、また打つ場所によって音が変わります。
- (E) 貝がらのカスタネット  
軽く打ち合わせます。
- (F) 擦り合わせれば蛙の鳴き声に似た音が出ます。  
千成ひょうたん（縦二つ切り）のカスタネット、昨年の夏、庭で出来たひょうたんをよく乾燥し、縦に二分しました。
- (G) くるみのカスタネット
- (H) 中ひょうたん（横二つ切り）のカスタネット  
紙コップ  
上向きままで、またはうつむけにしてテーブルの上を軽く弾くように打つとその打ち方によって、走る馬、高足歩きの馬、ゆっくり歩く馬の踏の音 などさまざまな表現が出来ます。
- .....
- このような音響実験を重ねていく中に幼児たち自身与えられた材料を用いながら次第に音楽的な良い音響楽器を創作していくことでしょう。幼児たち及びその周囲のものを深く理解し、幼ない時代を豊かな美しい音楽的環境の中に過ごすことが出来るよう努力したいと希っております。

（聖和女子短期大学）